



四国4県の中央病院間で「災害時相互応援協定」を締結しました

業務課



香川県立中央病院、徳島県立中央病院、愛媛県立中央病院、及び高知医療センターは、災害発生時に被災地からの傷病者の受入れ拠点にもなるなど、地域の災害医療の中核的役割を担う「基幹災害拠点病院」です。

そこで、南海トラフ地震等の大規模災害発生時における災害医療体制を強化するため、平成28年12月、太田院長など各病院の院長が集まり、4病院間で「災害時における医療機関相互応援に関する協定」を締結しました。

大規模災害時には、地域の医療機関の多くが設備の損壊や医療従事者の負傷等により機能停止し、被災地の基幹災害拠点病院

に多数の重症傷病者が搬送されるなど、既存の医療従事者や医薬品類等のみでは対応が困難となることも想定されます。

このため、本協定を締結することにより、各県の基幹災害拠点病院間において、医師・看護師等医療関係業務従事者の派遣や、医療機器・医薬品類・食料その他応援物資の提供など、被災直後から中長期段階に至るまで、迅速な支援が可能となります。

東日本大震災で通信網が乱れ、被災病院への支援ができなかった教訓や、九州・沖縄の病院間で結んだ協定が熊本地震の発生時に活用されたことを受けた取り組みで、南海トラフ巨大地震で四国は甚大な被害が想定されることから、今後は、中国地方の他の病院にも連携を広げていく方針です。

ローカルDMAT(香川DMAT)研修を行いました

医療情報管理室
吉田 誠治

香川DMATとは、災害や局地災害(列車や航空機事故など)が発生した際、香川県内の医療機関や救護所、避難所などで医療活動を行うDMATです。

この香川DMAT隊員を養成する研修を、香川県としては初めて1月28・29日に当院にて実施しました。今回は県内の災害拠点病院7病院から27名の医師・看護師・コメディカルを対象に、全国から集まった日本DMATインストラクター隊員が講師を務め研修を行いました。

研修は2日間でグループディスカッションやシミュレーションを伴う12の講義と、実際の無線機や衛星携帯電話を使用した実習、トリアージや救護所運営の実習など7つの実習を行い、非常に内容の濃い研修となりました。受講者は日常業務とは異なる内容に苦戦する場面もありましたが、真剣に研修に取り組み、27名全員が研修を修了し香川県から修了書が授与されました。

近年、東日本大震災や熊本地震など大規模な災害が続いており、また南海トラフや東南海地震といった大規模災害の発生も予想されています。このような災害が起こらない事を祈るばかりですが、発災した際にはDMATの存在は大きな力となりますので、香川県では今後毎年この研修を実施し、地域を守るDMAT隊員の養成を行っていく予定です。



へき地医療支援センターは県内へき地診療所の支援を行う部門です。

県内にはへき地医療拠点病院がいくつかあり、へき地診療所からへき地医療支援センターに代診医派遣等の依頼があれば、へき地医療拠点病院に連絡して代診医の確保に努めています。また、センターには2～3名の専任医師がおり、専任医師の定期派遣も行っています。多度津町の高見島、佐柳島、土庄町の豊島では専任医師による診療でほぼまかなっている状況です。

離島では交通アクセスが不便であり、高齢者が多く住民による自助努力にも限界があるため、何らかの形で定期的に医療が提供されることが大変重要です。今後は離島住民の減少により、市町が医師を確保して診療所を運営することはますます困難になると考えられます。専任医師の定期的な派遣や、拠点病院からの臨時的派遣を引き続き継続していきたいと考えています。



豊島健康センター(小豆郡土庄町豊島)の診療所の患者と看護師

「看護師の 稚児つつむ笑顔 豊島の春」
(岩井先生作の川柳)

岩井敏恭先生が平成28年度へき地医療貢献者表彰を受賞されました



全国自治体病院開設者協議会と全国自治体病院協議会では、へき地医療に貢献した医師を対象に表彰する制度を設けています。このたび、へき地医療支援センター部長 岩井敏恭先生が、平成28年度へき地医療貢献者表彰を受賞されました。

岩井先生は、豊島などの離島やへき地における診療に従事されるとともに、地域医療に関心の高い若手医師の県内定着やキャリア形成の支援に取り組まれています。さらに、県医務国保課主幹及び小豆保健所長を兼任するなど、地域医療のみならず、地域医療教育や地域保健など幅広い分野において長年ご尽力され、本県の医療の向上に多大な貢献をされています。

2/15

ほっと一息やすらぎタイム ミニコンサートを開催しました

関西を中心にライブ活動を行っておられるジャズピアニストの中山瞳さんを中心にベースとドラムのメンバーを加えたジャズトリオをお招きし、院内コンサートを開催しました。

アップテンポのスイングジャズやムーディーなナンバーまでトリオの息のあった演奏に皆さん聞き入っておられました。

今後も定期的に院内コンサートを開催する予定ですので、皆さま是非、足をお運びください。



医療セミナーを開催しました

3月16日(木)、本院講堂において、「脊椎手術の低侵襲化の試み」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は整形外科の長野主任部長、講演は生熊部長でした。参加者は医師等55名で、院外からも25名の先生方にご出席いただきました。

今後も、皆様のお役にたつ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



臓器移植の感謝状が贈呈されました

院内移植コーディネーター
中村 美穂



当院の使命の一つに、臓器提供施設としての役割があります。平成22年の臓器移植法の改正により、全国的にみて臓器提供件数は少しずつ増えているようです。院内臓器移植コーディネーターは、医師2名、看護師5名で、臓器提供に関する体制整備を進めています。そして患者家族が臓器提供をご希望された場合に、大切な“いのち”を繋ぐことができるよう支援しています。

その役割を使命として実践していくなかで、当院に厚生労働大臣から臓器移植に関して感謝状が贈呈されることになりました。授与式は平成29年1月19日に執り行われました。日本臓器移植ネットワーク西日本支部の小野由美子移植コーディネーターから、太田院長に感謝状が授与されました。日頃の功績を認めていただいたことに感謝するとともに、「患者・家族の思いを繋げていく」を大切に、研修会の開催やシミュレーションの実施などの啓蒙活動や体制整備を充実したいという思いが、一層強くなった感謝状の贈呈でした。

医療クオリティマネジャーの資格を取得しました

病院機能改善委員会委員長
院長補佐 稲葉 知己

医療が高度・複雑化する中で、医療の質を向上させていくためには、診療技術のみでなく、病院組織として質向上に取り組む事が必要とされています。当院は、11月に日本医療評価機構の病院機能評価3rdG:Ver.1.1を受審する予定で準備を行っております。外部評価である病院機能評価は質改善の契機となりますが、受審後も継続した質改善が極めて重要です。

日本医療評価機構は、この牽引役となるクオリティマネジャー(QM)の養成を平成24年度より開始しました。適切なクリニカルインディケータの設定と評価そして改善活動が実施でき、内部監査も含めた実効性のある活動ができる人材育成を目的としています。平成28年3月時点で、全国で545名、四国で18名の資格者が、各医療機関で質改善に取り組んでいます。

この度、稲葉知己、青江 基(呼吸器外科 主任部長)、兼安須磨子(診療情報管理室副室長)の3名がQMの資格を取得しました。連携いただいております医療機関の方々からのご意見も取り入れながら、院内の各部署と連携し病院全体の質の向上に取り組めます。



木曜日午後のPET検診について

従来からご希望の多かった木曜日午後のPET検診につきましては、本年6月から、毎週木曜日の午後を受診が可能となります。

お問い合わせ・ご予約は、次の電話番号にお電話いただき、木曜日午後のPET検診希望とお伝えください。

なお、午前8時以降(検査前6時間)は絶食が必要であり、飲み物は、水・お茶以外は飲めません。詳しくは、予約後にお送りする文書をご覧ください。

- 電話番号：検診センター直通 (087)802-1170
- 検診時間：13:30 受付(2階検診センター20番窓口) 16:30 終了予定
- 料 金：93,960円

■香川県立中央病院 検診センター

検査のはなし～迅速で正確な検査を～

中央検査部
技師長 内田 正美

香川県立中央病院で行われるさまざまな“検査”のうち、中央検査部では、次の五つの検査を担っています。検体検査（生化学検査・血液検査・一般検査・免疫血清検査）は、血液や尿などの成分を色々な分析装置を使って測定します。微生物検査は、細菌感染の有無や菌名、どんな抗生物質が効くかなどを調べます。生理検査は、心臓や腹部臓器などを超音波を使って調べたり、心電図、脳波、肺機能などを計測します。病理検査は、組織・細胞を対象とし疾病の最終診断を行います。輸血検査は、安全な輸血のために製剤管理や適合血選定を行います。また、外来患者さんの中央採血業務も担当しています。

このように、中央検査部で行っている検査の範囲や対象は、様々な分野に広がっていますが、各部署で専任の臨床検査技師が疾病の診断・治療が効果的かつ効率的に行われるよう迅速で正確な検査結果の報告につとめ、診療に役立つ検査情報の提供も行っています。また、常に患者さんと同じ視点に立ち、より良い臨床検査を実践していくことを心がけています。



退職のご挨拶



河上 ひとみ
中央検査部 前技師長

県職員となって最初の赴任先は、白鳥病院でした。当時は通勤が困難だったため、白鳥に住むことになり、白鳥病院の皆様には大変気遣いをいただきました。その後中央病院、津田病院、そしてがん検診センターの職場を経験し、定年まで39年間を無事に勤めることができました。

新中央病院では、がん検診センターとの統廃合から検診センターの立ち上げに関わったことを、また最後2年間は、中央検査部の技師長としての業務を支えていただいたことを大変感謝しております。皆様のご指導とご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

これから、中央検査部、輸血部、病理部は新規採用が増え、どんどん若返っていくと思われれます。

若い力が発揮され、ますます活躍の場が広がっていくことを願っています。今後とも中央検査部、輸血部、病理部をよろしくお願い致します。

最後に、皆様のご健康とご活躍を祈っております。本当に長い間お世話になりました。

医師の人事異動

転入



(1月16日付)
合田 かおる
麻酔科
徳島大学出身
(平成23年卒)
趣味/離乳食作り

写真ほど人面悪くありません。身も心も丸くなりました。よろしくお願ひします。



(2月1日付)
西内 崇将
血液内科・腫瘍内科
香川医科大学出身
(平成12年卒)
趣味/家族旅行・読書

地域医療に貢献できますよう一生懸命頑張ります。ご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

転出

(3月31日付)

- 西尾 美紀(救命救急センター)
- 竹内 亮(脳神経外科)
- 平田 昌敬(心臓血管外科)
- 木村 友香(糖尿病内科)
- 高橋 基城(整形外科)
- 田中 大介(泌尿器科)
- 柴田 茜(歯科・口腔外科)
- 坂本 拓海(放射線科)

- 佐々木宏樹(消化器内科)
- 影山 康彦(神経内科)
- 小来田佑哉(呼吸器外科)
- 太田 智之(形成外科)
- 小野由美香(放射線科)
- 紙谷 史夏(へき地医療支援センター)
- 赤井 弘明(研修医)
- 尾上 留美(研修医)

- 谷 美里(研修医)
- 中村 美織(研修医)
- 武田 貴志(研修医)
- 藤田 悠哉(研修医)
- 山口 雄大(研修医)
- 塚本 千晶(研修医)
- 坂井田京佑(研修医)